観光庁
Japan Tourism Agency

魅力的な韓国語解説文作成指針

地域観光資源の韓国語解説整備支援事業

観光庁
令和6年3月版

目次

はじめに

本指針について ・・・

はじめに

観光は、本格的な少子高齢化・人口減少を迎える我が国において、成長戦略と地方創生の大きな柱です。日本政府は、2030年までに訪日外国人旅行者（以下「外国人旅行者」という）を6,000万人に増やす目標を掲げ、官民を挙げて取り組み、2019年、外国人旅行者数は3,188万人に達しました。一方、市場別では、韓国からの旅行者（以下「韓国人旅行者」という）の数は2018年にピークを迎え、735万人に達しました（翌2019年は、7月頃に始まった日本製品不買運動に伴って558万人に減少し、その後、コロナ禍へ移行）。

さらに多くの外国人旅行者に来てもらい、満足して帰っていただくには、我が国の文化、歴史、自然等の観光資源をいかに活用するかが重要です。とりわけ、外国人旅行者にとって読みやすく、分かりやすい魅力的な解説文を作成することは、外国人旅行者の満足度を高める上で必要不可欠です。これらの認識の下、既に各地域では多言語解説の整備を行っていますが、解説文が乱立している施設や説明不十分な解説文がある等の課題が散見されます。そのため観光庁では、文化庁・環境省と連携して平成30年度から「地域観光資源の多言語解説整備支援事業（以下「観光庁多言語事業」という）を実施し、「国立公園」、「世界遺産」、「国宝・重要文化財」、「地域伝統芸能」、「祭り」、「食文化」及び「温泉」等の観光資源について、解説文を作成してきました。

一方、今後の韓国人旅行者の更なる増加に伴い、韓国語解説文作成のニーズが高まることが予想されることから、令和2年度より、観光庁多言語事業の英語解説文を活用し、「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業（以下「本事業」という）」を開始しました。

本事業では、令和4年度までに作成された計24地域の英語解説文を元に、韓国人旅行者の関心・嗜好を十分に考慮した上で、韓国人旅行者が魅力を感じる韓国語解説文に翻訳しました。「魅力的な韓国語解説作成指針（以下「本指針」という）」は、今後、観光庁多言語事業で作成した英語解説文を元に韓国語解説文の整備を行おうとする地域が、韓国人旅行者にとって魅力的な解説文を作成する際に参考とするガイドラインとしてまとめたものです。

本指針について

本指針は、観光庁多言語事業で作成した英語解説文を元に韓国語解説整備を行うにあたり得られた知見を取りまとめたガイドラインである。具体的には、どのような点に考慮・配慮し、どのように作成を進めていくと、韓国語圏旅行者の興味・関心を惹き、且つ分かりやすい韓国語解説文ができるかを本事業を通じて蓄積されたノウハウを取りまとめた。

Ⅰ．韓国語対応における現状と課題

地域観光資源の韓国語解説整備を推進する理由

韓国語解説整備を進めるべき理由を、韓国語圏旅行者の目線と観光資源所有者や地方自治体関係者等の目線から収集。本事業で実施したいくつかの調査データから見える現状を確認するセクション。

Ⅱ．韓国語解説文作成における基本的な考え方

韓国語解説整備における重要なポイント

韓国語圏旅行者に向けた解説は、どのような点に注意し、どのような内容にし、どのように伝えるべきか。またどのような人材が韓国語解説文作成に適しているかについてまとめたセクション。韓国語圏旅行者の興味・関心点等、本事業の調査結果を踏まえて紹介する。

Ⅲ．韓国語解説文作成の進め方

①韓国語解説文作成の手順　②事前準備　③内容検証
④地域確認（1回目）　⑤韓国語化　⑥地域確認（2回目）
⑦最終調整　⑧地域納品

本事業における韓国語解説文作成の手順と、各工程における作業内容を整理したセクション。主に、観光資源所有者や地方自治体関係者等が行う工程や、その注意点をまとめた。

Ⅳ．参考資料

有識者レビュー体制

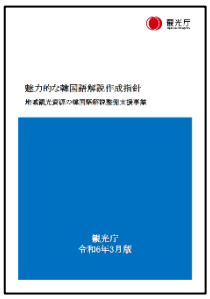
本事業で起用した有識者レビュー体制及び有識者の紹介。

本事業における成果物

本事業では、観光資源所有者や管理者、事業者等が、観光庁多言語事業で作成した英語解説文を元に韓国語解説整備を行う際に参考となるよう、「魅力的な韓国語解説作成指針」「ライティング・スタイルマニュアル」「用語集」「解説文事例集」を作成した。今後、<u>既存の韓国語解説文の見直しを行う際</u>や、<u>新たに韓国語解説整備を実施する際</u>は、以下の4点を参考にしていただきたい。

1. 魅力的な韓国語解説作成指針

日本語版

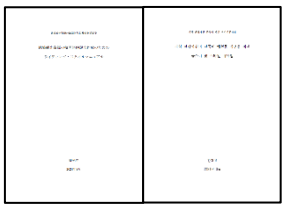


▶ **韓国語解説整備の進め方を紹介**

韓国語解説整備を行おうとしている観光資源の所有者や管理者等が、どのような点に考慮・配慮し、どのように作成を進めていくと、韓国語圏旅行者の興味・関心を惹き、且つ分かりやすい韓国語解説ができるかを示すガイドライン。

2. ライティング・スタイルマニュアル

日本語版
韓国語版

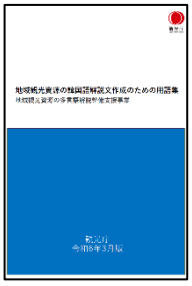


▶ **魅力的な韓国語解説文の執筆マニュアル**

韓国語解説文を作成する事業者（翻訳者、エディター等）が作成を進めていく際に、参考とするスタイルに特化したマニュアル。一般的なマニュアルやガイドラインとは異なり、「これが正しい」を示すのではなく、韓国語圏旅行者をターゲットに「この言葉では伝わっていない可能性がある」または「このように伝えたほうが分かりやすい」という視点で、理由と具体例を用いて説明。既に地域に同様のスタイルマニュアルがある場合でも参考としていただきたいもの。

3. 用語集

日本語・韓国語併記



観光庁の韓国語解説文作成のための用語集

観光庁
令和6年3月版

観光庁の韓国語解説文作成のための用語集

観光庁の韓国語解説文作成のための用語集

観光庁
令和6年3月版

Ⅰ．韓国語対応における現状と課題

効果的な解説文整備に対する期待度

韓国は諸外国の中で距離的に日本に最も近く、韓国人が短期で日本に滞在する場合には査証(ビザ)も不要であることから、日本は常に韓国人にとって人気の旅行先となっている。

JNTO日本政府観光局の資料によると、2023年の訪日客全体に占める韓国人の比率は27.7%と最も高い比率を占めている(図1)。また、韓国からの訪日客の年ごとの推移を見ても、2019年に韓国で日本製品の不買運動が起き、その後、コロナ禍に突入したことにより、2018年をピークに大きく減少したが、韓国人に対する査証免除措置を再開した2022年10月以降、ふたたび顕著な伸びを示していることがわかる(図2) 。

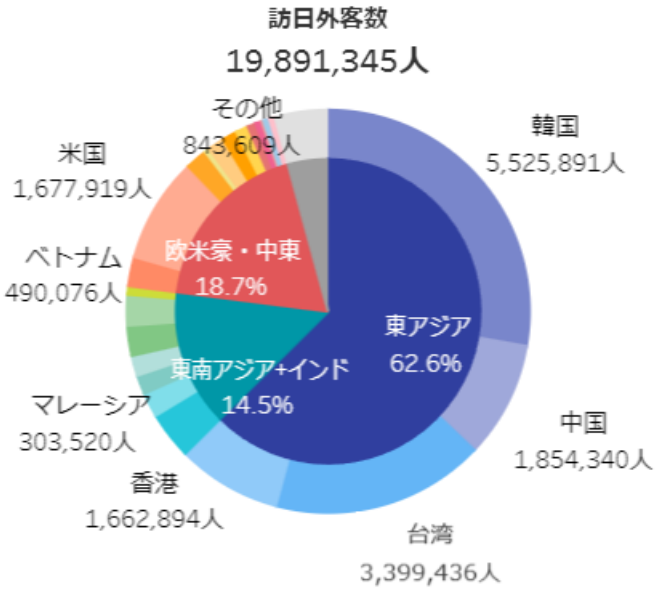


図1　JNTO　日本の観光統計データ「2023年 各国・地域別の内訳」を一部加工

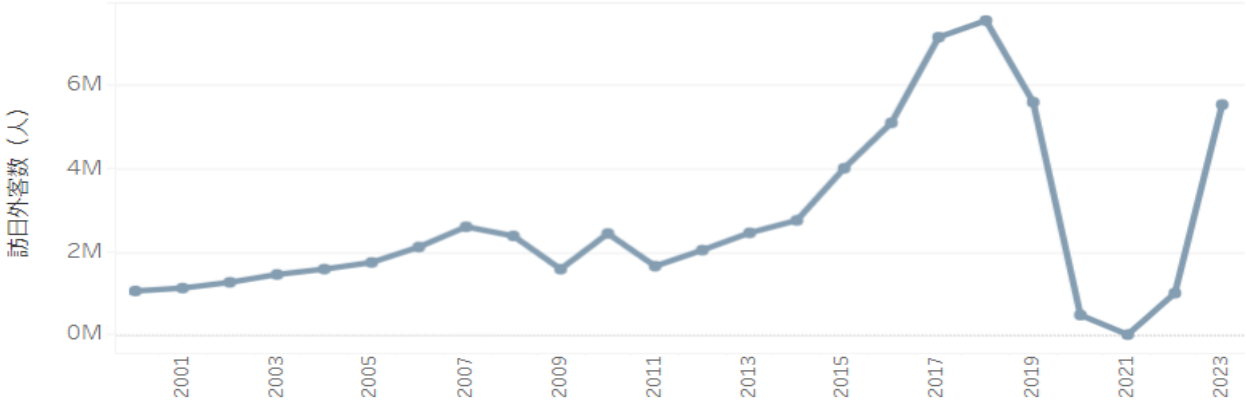


図2　JNTO　日本の観光統計データ「年別 韓国からの訪日外客数の推移」を一部加工

韓国からの訪日客について、その訪日目的を見ると、その大半が観光目的であることがわかる(図3)。

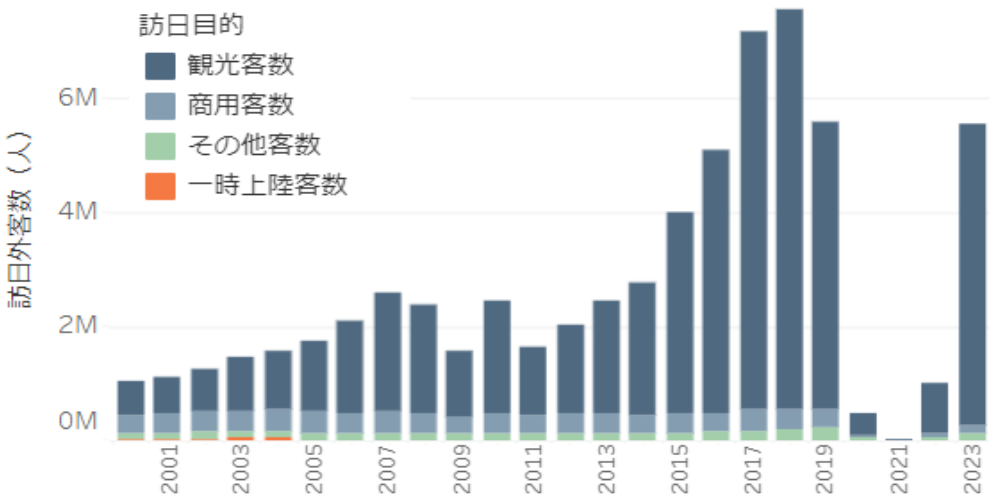


図3　JNTO　日本の観光統計データ「年別 訪日目的別の訪日外客数の推移（韓国・すべて）」を一部加工

前述のとおり、韓国人にとって、日本は非常に訪問しやすい外国である。また、各種の媒体を通じて、日本の情報をとても得やすい環境にあり、別頁(Ⅱ-1.韓国人旅行者の興味・関心の把握)で示すとおり、日本全国さまざまな場所を韓国人観光客が訪問先として選んでいる。

多くの人々が観光目的で日本各地を訪れていることを考えると、各種の解説や説明は、老若男女だれもが理解できるように韓国語で示すことが望ましいことであり、韓国語解説文を整備する必要性は大いにあると言える。

しかしながら、日本国内の韓国語解説文においては、誤訳や誤字、違和感のある韓国語表現、表記の不統一といった問題がしばしば見られるのが現状である。

また、観光地においては、日本の文化や習俗、歴史に関する説明が必然的に高い比率を占めることになるが、予備知識を必要とするほどの詳細過ぎる内容では、一般的な観光客にとっては難解であり、関心を持って読み進めてもらえる魅力的な解説文とは程遠いものになってしまう。

理解を助けるために、漢字の併記や補足説明等を用いることもできるが、それらについても、あまりに多いと冗長になってしまうため、どの程度のレベルで行うか検討する必要がある。

こうしたことから、韓国語解説文の作成においては、間違いや違和感のない韓国語表現であるのはもちろんのこと、「どの程度理解してもらえるのか」という視点に立って検討し、負担なく読み進めたくなるような解説文の作成が求められていると言えるだろう。

Ⅱ．韓国語解説文作成における基本的な考え方

1．韓国人旅行者の興味・関心の把握

韓国語解説文の作成にあたっては、韓国人旅行者の興味・関心を把握し、ニーズに合ったものを作成することが求められる。

観光庁が令和5年度に実施した「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査における設問項目「訪日回数」「訪日1回あたりの平均滞在日数」「訪問したことがある日本の観光名所」の結果から、韓国人旅行者の訪日の傾向が見えてくる。

はじめに、「訪日回数」についてまとめると図1のようになり、「10回以上」が82.1%、さらに「5回～9回」を加えると87.2%に達し、9割近くが5回以上訪日しているリピーターであることがわかる。

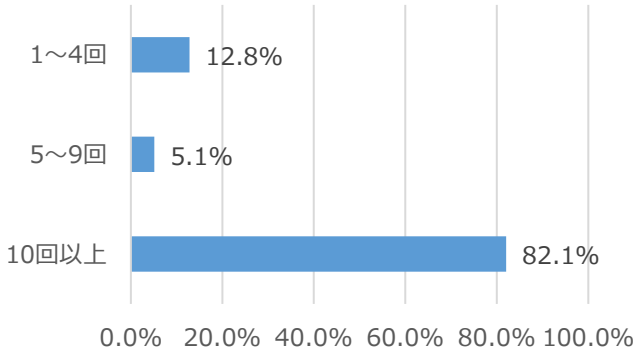


図1　訪日回数

次に、「訪日1回あたりの平均滞在日数」の回答を示すと図2のようになる。3日（12.8%）あるいは4日（20.5%）という短期の旅程はどちらかといえば少なく、5日（25.6%）および6～7日（24.4%）が優勢であり、5日～7日の旅程で全体のちょうど半数を占めた。さらに、長い旅程（8～14日、15日以上）で訪日する旅行者も、それぞれ10%に満たない程度で存在することがわかる。

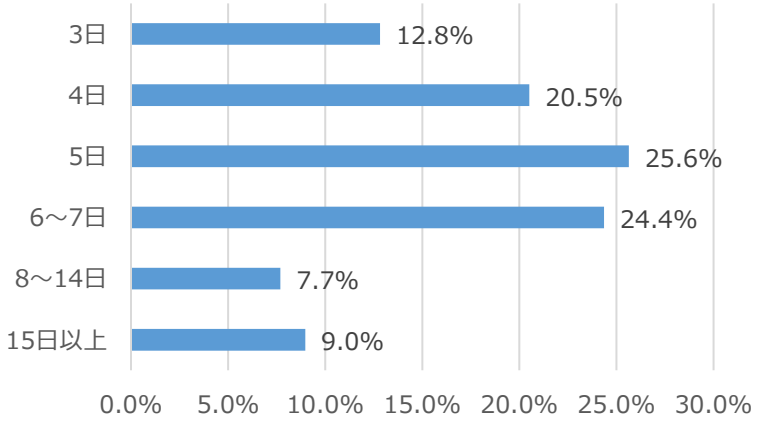


図2　訪日1回あたりの平均滞在日数
令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

「訪問したことがある日本の観光名所」の回答からは、韓国人旅行者の印象に残った観光地を探ることができる。

結果としては、9つの県を除く都道府県が挙げられており、日本全国ほとんどの地域が訪問先として選ばれているということが見えてくる。多かった地域としては、北海道、東京、京都、大阪といった観光名所が多く存在する地域と、韓国から近い九州各地が挙げられる。

訪問先の傾向を見ると、山、湖、温泉、著名な神社仏閣や城跡、テーマパーク、そして北海道美瑛・富良野のような美しい景観で知られる定番観光地のほか、倉敷や小樽のような観光都市も複数の回答者から挙がっていた。

もっと細かい地名としては、谷根千、下北沢、梅田、難波、鶴橋、神戸三宮といった市街地の地名のほか、市場やショッピングモール、百貨店、美術館なども挙がっており、都市自体を楽しむ傾向もあるものと思われる。

続いて、日本国内における韓国語説明文の問題点を探るために、「過去に日本を旅行した際に、観光地の説明文等を読んで困ったこと」について、複数回答可の選択式で質問した。

「デジタル化されていない」が最も多いという点から見えてくることとして、日本国内の観光地の担当者が思っている以上に、紙媒体よりもモバイル向けの情報提供が求められている可能性がある。60代以上のシニア層からもこの回答を得られていることから、全年代においてデジタル化は重要な課題であると考えられる。

「韓国語の解説文がない」について、回答者の年代別で見ると、全25件の回答のうち、40代以上の回答が21件を占めていた。

若い世代は英語がある程度身についていたり、日本語学習者の割合が高いなど、英語もしくは日本語で理解できている可能性があるが、年代が上がるにつれ、韓国語解説文の需要が高くなるようである。このことから、韓国語解説文が必要であることは間違いないだろう。

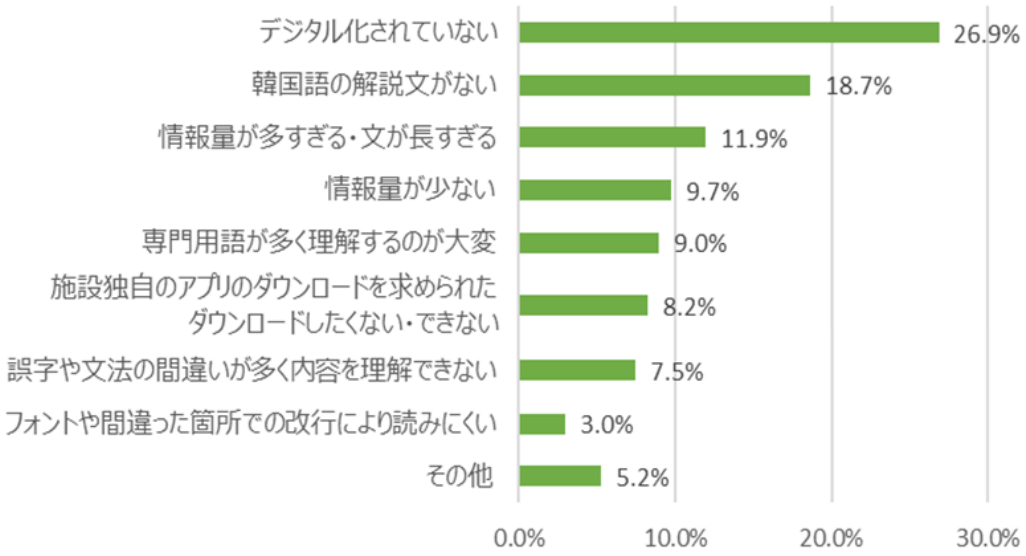


図3　過去に日本を旅行した際に、観光地の説明文等を読んで困ったこと
令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

そこで問題となる解説文の内容についてであるが、分量については、「情報量が多すぎる・文が長すぎる」「情報量が少ない」がそれぞれ10％前後みられた。
「多すぎる・長すぎる」という意見がやや優勢であることから、あまり多くを盛り込み過ぎず、端的に説明する方向で進めるのが好まれるのではないかと思われる。

「専門用語が多く理解するのが大変」という回答は、全体に占める割合としては低いが、「情報量が多すぎる・文が長すぎる」とも関連するものであり、解説文の作成にあたっては十分に検討すべき点であろう。
おそらく、ここで言われている「専門用語」には、仏像や神道の神、祭りなどの名称、文化的背景、史実や歴史上の人物などであると思われるが、それぞれの観光地にとっては、往々にしてむしろそれらの内容が重要であり、結果として、予備知識なしでは情報過多になってしまう。観光地の外国語解説文において散見される例として、「〇〇と呼ばれている」のように、日本語の名称を軸にして説明するものがあるが、これも不要な話題である可能性がある。

「施設独自のアプリのダウンロードを求められた（ダウンロードしたくない・できない）」という回答については、情報へのアクセシビリティの問題であり、解説文の作成とは異なるため、ここでは解説を割愛するが、普段使っているアプリ（ブラウザで参照するWebページ、一般的なSNSアプリ等）で、手間なく容易に情報を得られるようにする努力は必要であろう。

最後に、「誤字や文法の間違いが多く内容を理解できない」、「フォントや間違った箇所での改行で読みにくい」という点に関しては、韓国語の場合、観光地の担当者の多くがハングルを読むことができないため、掲示している内容に間違いがあっても、それに気づけないという根本的な問題があると思われる。
しかしながら、韓国語表記を必要としている旅行者が表記の間違いに気づいても、列車や飛行機に乗り遅れた等の問題でも生じない限り、わざわざ間違いについて担当者に伝えることはしないのではないかと思われる。
そのため、内容的にも、文法や表記の上でも、正しく、違和感のない解説文を作成するよう十分な注意を払う必要があるだろう。
外国人観光客向けの解説文を作成するにあたっては、どの言語でも共通のことではあるが、「その内容を盛り込んだとして、どの程度理解してもらえるのか」という視点が重要であり、それがなければ、「専門用語が多く理解するのが大変」であり、「情報量が多すぎる・文が長すぎる」解説文になってしまうだろう。

2. 韓国人旅行者と日本人の、日本文化に関する知識・認識の違い

日本語の固有名詞に関しては、当然日本語の音をそのまま表現すべきであるが、日本語には、ハングルでは正しく表記できない音がある。その中でも「つ」の表記には、似た音である「쓰」と「츠」の2種類の表記が存在しており、語頭に現れる「カ行」「タ行」「パ行」の音についても表記に揺れがあるといった問題がある。また、「対馬」を日本では「쓰시마」(ツシマ)、韓国では「대마도」(漢字「対馬島」のハングル読み)とするなど、発音以外の部分でも、両国における慣用的な表記が異なる場合がある。

そこで、日本の地名をハングルで表記する場合に、どのようにするのが韓国人旅行者に受け入れられやすいのか検討するために、「日本政府および地域自治体が行う韓国語表記と、韓国国民が一般的に使う表記とが異なる場合、どちらに合わせるのが望ましいか」という設問を設けた。

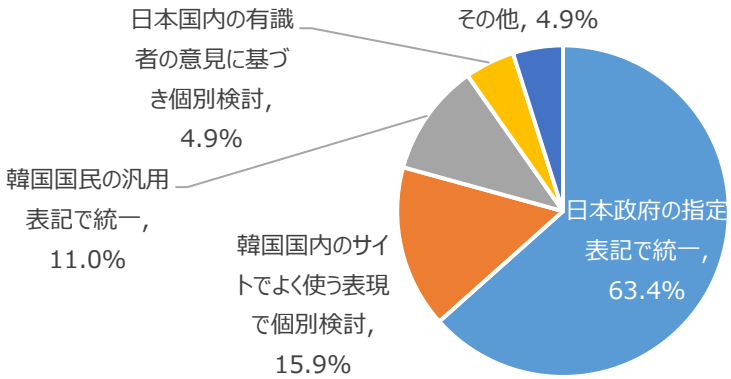


図1　日本と韓国どちらにおける表記で統一すべきか

令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

結果をまとめると、「日本政府の指定表記で統一」という回答がかなり優勢であり、このことから考えると、現在日本国内で主に行われている表記法で概ね問題ないと言えるだろう。訪日した韓国人旅行者が韓国での表記と違うと感じても、伝達に支障をきたすほどではないということだと思われる。

ただ、注目すべき点として、別の設問への回答で、「『竹島』『日本海』という表記に拒否感を覚える」というものがあった。今回は当該回答者1人であったが、特に「日本海」は観光案内には頻出の語彙であるので、「日本海」と表記した場合に、実際にどの程度の韓国人旅行者が不快に思うのか、という点について調査し、把握しておくことは、今後の課題ではないかと思われる。

続く設問では、紀年法について、和暦および「江戸時代」「平安時代」といった時代区分を用いた記述について、どのようにするのが望ましいか、あるいは配慮すべきであるか尋ねた。

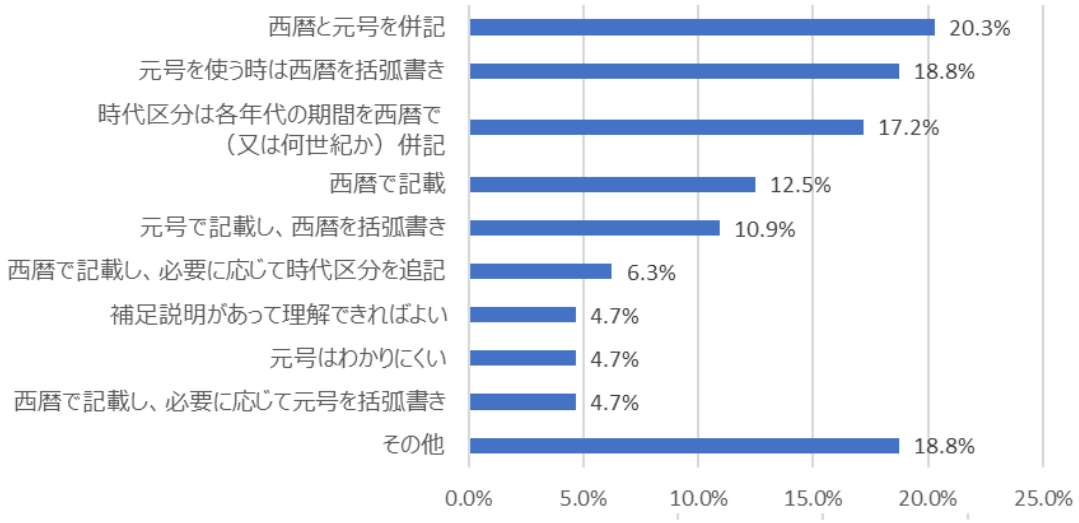


図2　紀年法についてどのようにすべきか
令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

結果は上記のようになり、「元号を使う時は西暦を括弧書き」「時代区分は各年代の期間を西暦で（又は何世紀か）併記」「元号で記載し、西暦を括弧書き」を合わせると46.9%となり、「元号や時代区分を優先してもよく、その場合、必要に応じて西暦を併記する」という趣旨の回答が多くを占めた。

「西暦で記載し、必要に応じて時代区分を追記」「西暦で記載し、必要に応じて元号を括弧書き」という西暦を主とする回答に、元号や時代区分を排した「西暦で記載」という回答を合計しても23.5%に過ぎないことから、元号や時代区分の記載については問題なく受け入れられており、必要に応じて西暦を括弧書きするという表記法で問題ないと思われる。

なお、「元号はわかりにくい」という、元号の記載に対して否定的な意見も一定数見られた。

続く設問では、日本と韓国の「似て非なる」習慣や、日韓の言語における通訳・翻訳により、戸惑った経験があるかを尋ねた。

まず、有無については、「ある」は40.2%、「ない」が59.8%と、半数以上は特に戸惑ったことがないという結果であり、現状でも大きな問題はないものと考えてよいだろう。

「ある」と答えた回答者に対する、具体的にどのような問題があったかという問いに対しては、有効とした回答32件のうち、「韓国語説明文の誤訳、違和感のある訳、直訳」が9件と最も多かった。その具体的な例としては、「日本と韓国の外来語の意味の違い」「言葉遣いがぞんざいで不快な翻訳」というようなものがあった。回答者が見たものが人の手によって訳されたものか、機械翻訳されたものかは不明であるが、いずれにせよ、こうした問題については、韓国語ネイティブのチェック等により、回避するための努力をする必要がある。

また、「朝鮮半島」や「朝鮮戦争」といった語についての指摘もあったが（韓国ではそれぞれ「韓半島」および「6.25戦争」という）、これについても、韓国人向けに韓国語で表記するのであれば、韓国での言い方に合わせるのが望ましいのではないかと思われる。

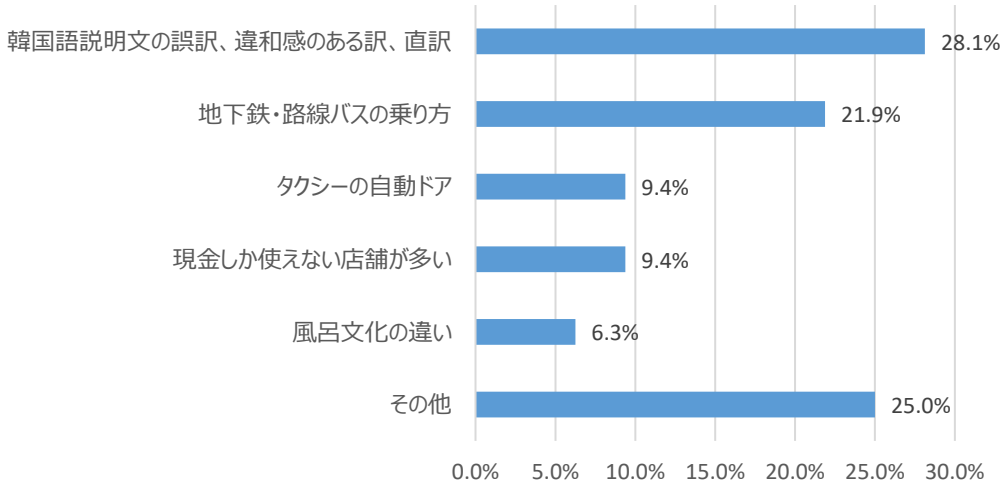


図3　日本の文化や習慣、言葉の通訳・翻訳で戸惑った経験の具体例
令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

次いで回答が多かったものとしては、いずれも文化や慣習の面における韓国と日本の違いに関するものであるが、「地下鉄・路線バスの乗り方」「タクシーの自動ドア」「現金しか使えない店舗が多い」「風呂文化の違い」といった回答が続いた。

韓国人向けの情報提供という面では、「英語表記がもっと多いとよい」という回答があったが、この回答者は28歳の男性であった。別の設問において、「韓国語の解説文がない」という回答が30代以下ではかなり少なかったことを考えると、若い世代においては、頑張って韓国語の案内を整備しようとせずとも、英語の案内を充実させてくれればよいという意見が一定数あるのではないかと推察される。

参考：令和2年に作成された英語解説文の活用例『熊本市』(観光)

＜英語解説文・日本語仮訳＞

肥後（熊本）藩初代藩主、加藤清正（1562-1611）は、ここ加藤神社に神として祀られています。実際のお墓は、市の西部にある本妙寺に位置しています。

毎年正月には、地元で「清正公さん」と呼ばれている神様にご利益を祈願するため、3日間で約40万人の人々が加藤神社を参拝します。清正は、1588年から熊本の北半分、1600年からは熊本全域の領主となりました。大規模な治水事業を行い、地元の川を治め、安全で肥沃な土地にし、現在の熊本の礎を築きました。

大工と戦士のための神様

加藤清正は、建築家や大工から尊敬されており、その土木・建築の才能を称えられています。清正は、朝鮮出兵（1592-1598）においても、徳川幕府（1603-1867）樹立への転換点となった1600年の関ヶ原の戦いにおいても負け知らずであり、日本では剣道や野球などの競技をする人々の間で有名です。また、加藤が「勝とう」の同音異義語であることから、人々は清正に病気の克服や難関校の合格などのご利益を祈願します。

日本と韓国は隣国として古くから密接に関わってきた歴史があるが、ネガティブな感情を含む事柄も少なからず存在する。朝鮮出兵は韓国にとっては侵略を受けた歴史であり、韓国人旅行者に関心を持って読み進めてもらうためには避けるのが望ましいと思われる。そのため、加藤清正の朝鮮出兵についての記述を削除した。ただし、一定の記述が必要な場合もあるため、最終的には地域側と適宜協議の上、決定する必要がある。また、加藤神社の概要においては、韓国人旅行者の日本に対する知識の深さに鑑み、「肥後国」「熊本藩」「熊本（市）」「熊本県」の区別に十分留意して修正した。

＜韓国語解説文・日本語仮訳＞

熊本藩初代藩主、加藤清正（1562-1611）は、ここ加藤神社に神として祀られています。実際のお墓は、市の西部にある本妙寺に位置しています。

毎年正月には、地元で「清正公さん」と呼ばれている神様にご利益を祈願するため、3日間で約40万人の人々が加藤神社を参拝します。清正は、1588年から肥後国（現在の熊本県）の北半分、1600年からは肥後国全域の領主となりました。大規模な治水事業を行い、地元の川を治めるとともに、安全で肥沃な土地にし、現在の熊本の礎を築きました。

大工と戦士のための神様

加藤清正は、土木・建築に関する類稀なる才能から、建築家や大工から尊敬を集めています。清正は、徳川幕府（1603-1867）樹立への転換点となった1600年の関ヶ原の戦いにおいても負け知らずであり、日本では剣道や野球などの競技をする人々の間で有名です。また、加藤が「勝とう」と音が同じであることから、人々は清正に病気の克服や難関校の合格などのご利益を祈願します。

青文字：加藤神社の概要　　緑文字：加藤清正の概要

蛍光文字：記載を最小限に留めた情報

3. 韓国人旅行者と日本人の、生活習慣に関する知識・認識の違い

韓国語説明文を作成するにあたり、読み手に関心を持って読み進めてもらうためには、違和感のない文章にする必要がある。そこで、単位の表記や、助数詞を用いた数え方、大きさなどを表現する例え方などに関して、過去に違和感のあった事例や、誤表記について質問した。

まず、問題の有無については、「問題なし」または「概ね問題なし」が59.0%という結果であった。さらに「無回答」が13.3%であったが、これは、「過去に違和感を感じた事例や、誤表記があったか」という設問であったため、特段の問題を感じなかった回答者が無回答であったものと考えると、「無回答」も合計して72.3%となった。このことから、全体的には現状どおりで問題なく、さらにブラッシュアップするなら今回の回答の内容を参考にするとよいと言ったところであろう。

「問題あり」と分類した回答について、具体的な内容を検討したところ、大きく分けて4つの回答に分類することができた。

最も多かったのは、「畳〇枚分」「東京ドーム〇個分」といったように部屋や敷地の広さを例える表現が外国人には分かりにくいというものであった。これらは、日本語で既に存在している解説文を単純に外国語訳した場合によくある例である。

次に多かったのは、「数を数える際の助数詞の違和感」であった。具体的には、韓国では「개」(個)で数えるべき皿の枚数を「장」(枚)で数えていた、あるいはその逆で、別の助数詞を使うべきところで、「개」(個)に統一してしまっていた、というものなどである。

続いては、単位の表記に関することで、例えば「メートル」を「미터」とハングル表記したような場合の違和感に関する回答である。これも、翻訳前の日本語原文において、カタカナで表記されていたのであろうと推測できる。これについて、「m」などの単位記号による表記が望ましいという意見が見られた。

韓国ではミリメートルが用いられる靴のサイズの表記について戸惑ったという回答も見られた。

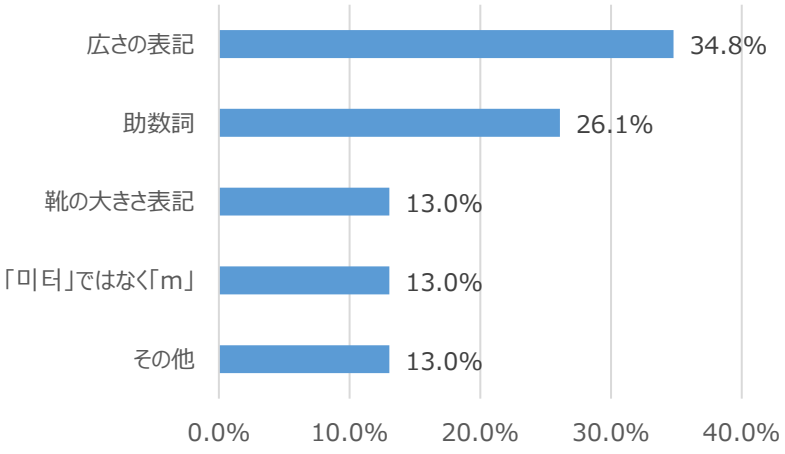


図1　単位や助数詞、大きさなどの表現における問題の具体例
令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

続いての設問では、日本国内の観光施設の韓国語表記において、使用されているフォントや分かち書き、『 』などの記号に違和感を感じたことがあるか尋ねた。

「問題なし」と「何らかの問題あり」がちょうど半数ずつとなったが、具体的な問題としては図2のようになった。

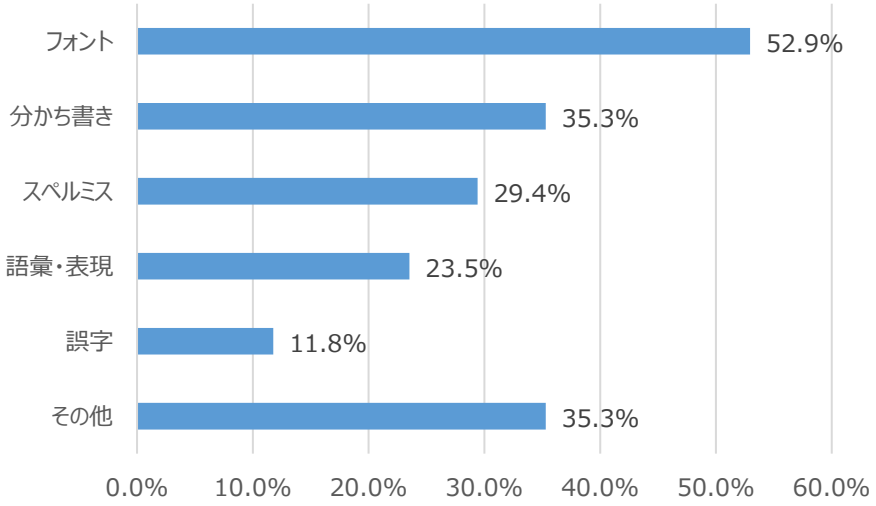


図2　フォントや分かち書き、記号等の違和感の具体例

令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

フォントに関しては、「硬い」「古臭い」「韓国では使われていないフォント」といった回答があり、中でも「古臭い」という印象を受けた人が多いようであった。

分かち書きについては、韓国人の間でも書き方に多少揺れがあるが、明らかに不要なところでの分かち書きや、必ず必要な位置で分かち書きがされていないというような場合は、違和感に加え、可読性の問題も生じるので、確実なスペルチェックを行うことが必要である。同様に、スペルミスと誤字に関しても、確実なスペルチェックによって、できる限り減らさなければならない。

語彙・表現では、「韓国では使われていない語彙の使用（例：便所）」「機械翻訳に基づくと思われる同音異義語」といった具体例が挙げられた。例えば、「변소」（便所）という語は、役所等で施設の名称として用いる「公衆便所」という語を単純に翻訳したというようなことが考えられるが、やはり、韓国で一般的に用いられている「화장실」（化粧室）と言い換えるべきであろう。

「その他」としてまとめた回答の中で、「和文の読点をその通りに翻訳」というものがあった。韓国語の文章表記は、日本語に比べて読点が少ないという特徴があるため、日本語のとおりに読点を入れると、文章がぶつ切りになって読みにくいものになってしまう。

観光地の説明文は、冒頭にも述べたとおり、読み手に関心を持ってもらい、読み進めてもらえるものにしなければ、せっかく手間をかけて作っても無価値なものになってしまう。これらの回答の結果や具体的な意見を踏まえて、韓国人にとって読みやすく、違和感のない説明文を作成することが求められる。

参考：令和元年に作成された英語解説文の活用例『一般社団法人富士五湖観光連盟』（文化財）

＜英語解説文・日本語仮訳＞

このロープウェイと公園のテーマは、「カチカチ山」という、性悪タヌキに悪さをされた農夫を助けにやってきたウサギが出てくる日本の民話をもとにしたものです。この物語のある時点で、ウサギはタヌキが背負っていた木の一部に火をつけようと、火打ち石と鋼を使います。タヌキが燃えさかる木から聞こえるカチカチという音に気づいたとき、ウサギは「カチカチ山」の音に違いないととぼけます。 タヌキは、ひどい火傷を負ったあとになって初めて騙されたことに気づきます。有名な小説家、太宰治（1909-1948）が現代風に書き直した「カチカチ山」では、物語の舞台が具体的に天上山となっています。

カラフルな像から、土産物や軽食を販売している「たぬき茶屋」まで、この民話を基にした像や民話をほのめかす物が公園のいたるところにあります。この公園にはうさぎ神社という本物の神社まであります。その他にも富士山を背景としたハート型の枠にかかった天上の鐘や、小さな陶器製の皿を投げてロープの輪をくぐらせるスキルを試すことができるかわらけ投げ場という小さな呼び物があります。富士山を何にも遮られることなく見たいという来訪者は、7メートルの武田信玄の戦国広場絶景やぐらにのぼることもできます。

外来語であっても、同一の物を示すのに韓国語と日本語で呼び方が異なる場合がある。韓国語解説文では、「ロープウェイ」の韓国での呼び方に合わせて、「케이블카」(ケーブルカー)という語を用いた。また、「カチカチ」は物語の名前、すなわち固有名詞の一部であるため音表記が求められるが、一方で焚き木が燃える際の音であることも明確にする必要がある。そこで、「딱딱」(タクタク)という擬音を用いつつ音表記も残し、「카치카치야마(딱딱산)」(「カチカチヤマ(タクタク山)」)というように音と意味を訳すように努めた。

＜韓国語解説文・日本語仮訳＞

このロープウェイと公園のテーマは、「カチカチ山」という、性悪タヌキに悪さをされた農夫をウサギが助けるという日本の民話をもとにしたものです。この物語の中盤、ウサギはタヌキが背負っていた焚き木に火をつけようと、火打ち石と鋼を使います。タヌキが燃えさかる焚き木から聞こえるカチカチという音に気づいたとき、ウサギは「ここはカチカチ山だからカチカチ音がするのだ」ととぼけます。 タヌキは、ひどい火傷を負ったあとになって初めて騙されたことに気づきます。有名な小説家、太宰治（1909-1948）が現代風に書き直した「カチカチ山」では、物語の舞台が具体的に天上山となっています。

タヌキとウサギのカラフルな像や、土産物や軽食を販売しているお店の「たぬき茶屋」という名前など、この民話を基にした像や民話に関する物が公園のいたるところにあります。展望台の隣にはうさぎ神社という本物の神社まであります。その他にも富士山を背景としたハート型の枠にかかった天上の鐘や、小さな陶器製の皿を投げてロープの輪をくぐらせると願いが叶うというかわらけ投げというアトラクションがあります。また、地面からの高さ7メートルの「武田信玄の戦国広場　絶景やぐら」に上れば、何も遮るもののない富士山の絶景を楽しむことができます。

青文字：カチカチ山の概要　　緑文字：民話の概要

4. ハングルによる日本語の表記法と意味に基づく翻訳法の棲み分けへの期待

日本における韓国語表記には、「日本語の音に基づいた表記」と「韓国語の意味に基づいた表記」が混在している。アンケートでは、表記法の違いによって、分かりにくさが発生したり、支障をきたしたような事例があったか、また、分かりやすいと思われる方法があるか尋ねた。

ここでいう「日本語の音に基づいた表記」とは、例えば、旅館を「료칸」(リョカン)と表記したり、清水寺について全体を固有名詞とみなして「기요미즈데라」(キヨミズデラ)と音で表記する場合であり、「韓国語の意味に基づいた表記」とは、旅館を「여관」(旅館の意、読み「ヨグァン」)と表記したり、清水寺の清水だけを固有名詞とみなして「기요미즈 절」(キヨミズ＋「寺」の意味の韓国語、読みは「チョル」)と表記するというものである。

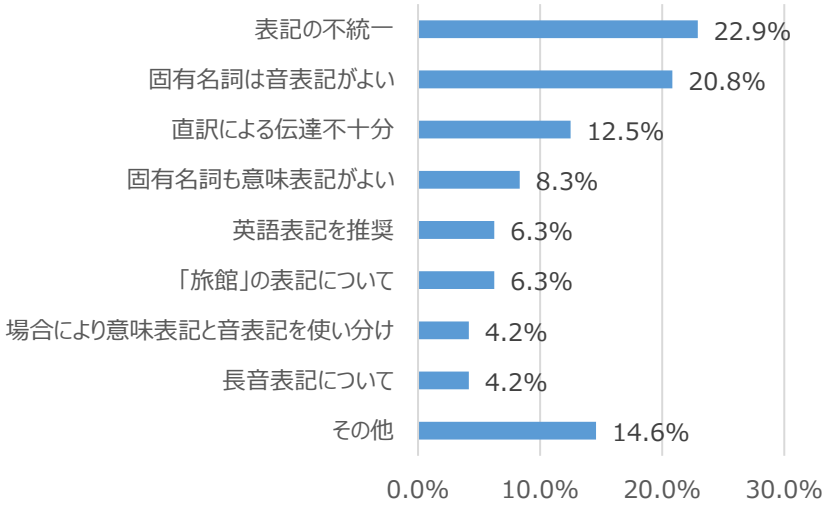


図1「日本語の音に基づいた表記」と「韓国語の意味に基づいた表記」について
令和5年度 観光庁「地域観光資源の韓国語解説整備支援事業」アンケート調査

有効とした回答48件を分類した結果を見ると、「表記の不統一」が最も多かった。具体的な例としては、清水寺と同様に、熊本城を「구마모토죠」(クマモトジョウ)と「구마모토성」(クマモト＋「城」)とした例、駅などの西口、東口を「서쪽통로」(西通路)、「동쪽문」(東門)とした例(実際には「서쪽입구」(西入口)、「동쪽출구」(東出口)といったような表記が一般的である)、〇〇センターという場合に「センター」の部分が「센타」「센터」と揺れがあるといった例が挙げられた。

固有名詞についての望ましい表記については、「固有名詞は音表記がよい」（例：キヨミズデラ）が20.8%、「固有名詞も意味表記がよい（例：キヨミズ＋「寺」）」が8.3%、「場合により意味表記と音表記を使い分け」が4.2%という結果であった。このことから見ると「音表記」の方が優勢であった。「音表記がよい」の理由としては「日本人に道を尋ねるときに『キヨミズ＋「寺」』（キヨミズチョル）では日本人が理解できない」、一方、「意味表記がよい」の理由としては、「音表記の『テラ』を『寺』の意味だと理解できない旅行者もいる」というものがあった。また、「現地でコミュニケーションをとる場合に、英文表記で書いた方が便利」といった理由で、「英語表記を推奨」という回答（6.3%）もみられた。

「直訳による伝達不十分」は12.5%を占め、その具体例としては、「미치노에키」（ミチノエキ）や「시로에비」（シロエビ）など、日本語をそのままハングルで表記する例が分かりにくいというものであった。別の設問への回答で「交番は『警察』または『POLICE』と表記すべき」というものもあった。物の呼び名についても、日本語と韓国語で用いられる語彙の違いがあり、例として、「미용액」（美容液）、「유액」（乳液）をそれぞれ「스킨」（スキン）、「로션」（ローション）と言うべきという意見もあった。同じものであっても、現地で実際にどのように呼ばれているのか、アンテナを張って訳語を選択する必要があるだろう。

「長音表記について」（4.2%）というのは、長音と短音の区別が韓国語には存在しないため、例えば「小野」（おの）と「大野」（おおの）が、「오노」という同じ表記になってしまうということである。しかしながら、韓国国立国語院の外来語表記法では長音を表記しないこととしているため、同規定に従うと、「小野」と「大野」が同じになってしまう。万が一、長短音の違いしかない2つの地名が存在するような場合、翻訳の際には注意して、例えば「大野」を「오노」ではなく、イレギュラーではあるが「오오노」とするなど、注意する必要があるだろう。

「『旅館』の表記について」（6.3%）という回答は、日本と韓国それぞれにおける「旅館」という語のイメージの違いに基づいていると思われる。日本の旅館は、高級旅館から安宿まで様々だが、韓国語の「여관」（旅館）のイメージは基本的に安宿であるため、「旅館」を単に「여관」と訳すことは、避けるべきなのかもしれない。「そのまま『료칸（リョカン）』と言ってよいほど韓国語に定着している」という意見もあったが、やはり、日本について十分に理解している観光客ばかりでもないであろうから、「료칸（リョカン）」としつつ、括弧書きで「日本式旅館」などと説明を入れるのが適切であろうと思われる。

「その他」としてまとめた回答のうち、取り上げるべきものとして、「漢字を加えた方が理解の助けになるなら、漢字を添えるとよい」というものがあった。有効な方法であるが、漢字併記が多すぎると煩雑になってしまうので、どのような場合に漢字を添えるか、あらかじめ定めることにより、必要十分な内容の説明文を作成することができるだろう。

参考：令和2年に作成された英語解説文の活用例『縄文遺跡群世界遺産事務局』（文化財）

＜英語解説文・日本語仮訳＞

特別史跡　大湯環状列石

この遺跡は秋田県鹿角市にあり、8000個を超える石が2つの大きな環状に配置されています。この環状列石は紀元前2000年頃のものであり、その配置から、太陽の動きが把握されていたと考えられます。その構築には、多大な努力と綿密な計画が必要だったことでしょう。構内の博物館は、環状列石に関する情報を紹介しており、この遺跡で出土した土器や儀式に使う品々を展示しています。

環状列石の特徴

2つの環状列石は内側の環と外側の環から構成されており、これらの環は小さく配置された石からできています。各環状列石の環の中には、1つの石が立てられた周りに放射状に石が並べられています。これらの放射状の配石は、日時計と類似しており、夏至と冬至の間には、北西－南東の軸に沿って影が1本の線になるように並べられています。考古学調査では、配置された石の下に墓穴が発見されており、考古学者たちはそれぞれの配置が1つの墓を示していると考えています。

韓国語は文法構造が日本語と非常に近いため、日本語として自然な構成の文章の方が韓国人にとっても読みやすい文章であると言える。そのため、全体的に、英語解説文仮訳では構造的に読みにくい感のあった箇所を、内容は維持したままで構成を組み替え、読みやすくする変更を行った。また、英語は主語が必須の言語であり、ここでも「考古学者たちは」と主語が提示されているが、韓国語では主語がない方がすっきりした文章になると思われるため削除した。

＜韓国語解説文・日本語仮訳＞

大湯環状列石

秋田県鹿角市にあるこの遺跡は、8000個を超える石を、2つの大きな円形をなすように配置した環状列石遺跡です。この環状列石は紀元前2000年頃のものであり、その配置から、太陽の動きを知るためのものであったと考えられます。その構築には、多大な努力と綿密な計画が必要だったことでしょう。構内の博物館では、環状列石に関する情報を紹介しており、この遺跡で出土した土器や儀式に使われた品々を展示しています。

環状列石の特徴

2つの環状列石はそれぞれ内側の環と外側の環から構成されており、これらの環は少ない数の石を円形や菱形などに小さく並べた配石が、環状に配置されて出来上がっています。各環状列石の内側の環と外側の環の間の1か所に、1つの石を立てた周りに石を放射状に並べた形の配石が作られています。この配石の配置は、日時計と類似しており、夏至と冬至には、北西－南東の軸に沿って影が1本の線になるように並べられています。考古学的調査によると、配石の下に墓穴が発見されており、それぞれの配石が1つの墓を示していると考えられています。

青文字：大湯環状列石の概要　　緑文字：環状列石の概要

媒体の種類・特徴及び推奨される文体と文字数

媒体種類	対象者	主な特徴	推奨文体（トーン＆マナー）と文字数
WEB	来訪予定者 （タビマエ）	・全体像の把握が可能 ・多くの情報掲載が可能	・ 観光客に「選択」と「学習」させるための媒体 ・多くの情報を適切に整理し、前後の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける ・地域の特徴を鮮明に分かるようにする
パンフレット	来訪予定者 ＆訪問者 （タビマエ ＆ タビナカ）	・全体像の把握が可能 ・多くの情報掲載が可能 ・携帯、持ち帰りが可能 ・絵や写真と共に、簡潔な情報掲載が可能	・ 観光客に「選択」と「学習」させるための媒体 ・多くの情報を適切に整理し、前後の順番、表現の強弱のつけ方に気を付ける ・地域の特徴を鮮明に分かるようにする
QRコード	来訪予定者 ＆訪問者 （タビマエ ＆ タビナカ）	・携帯、持ち帰りが可能 ・絵や写真とともに、簡潔な情報掲載が可能	・観光客が「行動」する最中にメインとなる媒体をサポートするもの ・メイン媒体の邪魔にならずかつしっかり補助できるものにする
解説看板 パネル キャプション	訪問者 （タビナカ）	・目の前の対象に関する情報提供が可能 ・絵や写真と共に、簡潔な情報掲載が可能	・観光客が「行動」する最中に目にする媒体 ・他言語とのバランスを重視する ・分かち書きが入っても読みづらい印象にならないように簡潔に、分かりやすい文章にする
ラミネート	訪問者 （タビナカ）	・目の前の対象に関する情報提供が可能 ・視覚と聴覚を通して情報提供が可能	・観光客が「行動」する最中に目にする媒体 ・他言語とのバランスを重視する ・分かち書きが入っても読みづらい印象にならないように簡潔に、分かりやすい文章にする
音声ガイド	訪問者 （タビナカ）	・聴覚を通して情報提供が可能	・観光客が「行動」する最中にメインとなる媒体をサポートするもの ・メイン媒体の邪魔にならずかつしっかり補助できるものにする

分野ごとに推奨される文体例

分野	文体（トーン＆マナー）
文化財	**格調を備えた平易な文体** 古き日本の伝統文化に相応しい品位を保ちつつ、読みやすい文体が望ましい。
自然	**無駄がなく、麗しさが宿る文体** 美しい自然に相応しく、滑らかで、平易で、かつ親しみやすい文体が望ましい。
観光	**軽快さを持ち合わせた可読性の高い文体** 複合観光地域に相応しく、楽しく、明るく、ワクワクさせられ、読みやすく軽やかな文体が望ましい。

5. 品質の高い韓国語解説文作成のための専門人材の確保

本事業では、「地域観光資源の多言語解説整備支援事業」で作成した英語解説文を活用して、韓国語解説文を作成するものである。このため、先に挙げた1～4のポイントに沿った、韓国語圏旅行者の立場に立った情報を盛り込み、英語解説文の編集及び韓国語化するには、知識と経験を備えた人材の確保が最重要とされる。

人材の確保にあたっては、解説文を作成する対象物の特性（文化財、自然、食文化、伝統、芸能等）と、専門人材が得意とする地域・分野が合致しているかが重要である。

専門人材の起用に求められる要件

地域においてすべての専門人材を確保して実施することは困難であることが想定されるが、本事業で実際に起用した要件を参考に示す。

専門人材の名称		役割	人材要件
翻訳者		英語解説文及びエディターが修正した日本語原稿を元に、地域と媒体の特徴に適した文体表現を用いて、韓国語に翻訳編集する。	韓国語を母国語とし、大卒以上の学歴、5年以上の英韓または英日翻訳歴を持つ者。
エディター	メイン	英語解説文を韓国語圏旅行者の視点から内容を検証し、必要に応じて取捨、追記、編集する。また必要に応じて、韓国語解説文のブラッシュアップをサポート。	韓国語を母国語とし、ネイティブレベルに近い英語力または日本語力を有する。韓国語圏訪日客の興味関心を熟知し、かつ日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ者。
	サブ	英語解説文の事実確認を実施し、メインエディターの作業をサポート。	日本語を母国語とし、ネイティブレベルに近い英語力を有し、日本の自然、文化財、観光等の分野に一定の知見を持つ者。
校閲者		翻訳者が翻訳し、エディターが編集した韓国語解説文の意味や内容について、誤用や事実誤認などの有無を確認し、翻訳者に修正を指示する。	韓国語を母国語とし、大卒以上の学歴、5年以上の書籍執筆または編集歴を持つ者。
スタイルチェッカー		翻訳者が翻訳し、エディターが編集した韓国語解説文について、本事業の編集方針である韓国語解説文の『スタイルマニュアル』に基づき、ライティングスタイルの統一を行う。	韓国語を母国語とし、本事業の「スタイルマニュアル」の内容を理解し校閲できる者。
ディレクター		全体企画（検証基準設定・スタイル文体策定）、事務局への定期進捗報告のまとめ及び各作成実務チームへのオリエン、進捗・危機管理を行う。	韓国語を母国語とし、またはネイティブレベルに近い韓国語力を有し、かつ事業の企画・執行管理の経験が豊富にあり、事業全体の進捗を円滑に遂行できる者。

Ⅲ．韓国語解説文作成の進め方

① 韓国語解説文作成の手順

本事業は以下の作成工程で実施した。地域及び専門人材が各ステップの内容を理解することで、質の高い解説文を効率よく作成することを目指す。

【凡例】
◎・・主担当
●・・担当
(●)・・必要に応じて

工程		実施内容	ポイント	担当者							所要時間目安
				地域	ﾃﾞｨﾚｸﾀｰ	翻訳者	エディター		校閲者	ｽﾀｲﾙﾁｪｯｶｰ	
							メイン	サブ			
				事業主体者	企画進行管理	韓国語翻訳	韓国語圏旅行者視点	事実確認	韓国語ﾌﾞﾗｯｼｭｱｯﾌﾟ	ﾗｲﾃｨﾝｸﾞｽﾀｲﾙ統一	
事前準備	Step1	作成体制の構築	経験豊富な人材の起用		◎						1ヶ月
内容検証	Step2	英語解説文の検証編集	事実確認、韓国語圏旅行者視点からの取捨追加要素の確認		●		◎	◎			1ヶ月
	Step3	地域確認①	検証編集結果の確認	◎	●		(●)	(●)			2週間
韓文作成	Step4	韓国語翻訳	翻訳（一次訳→校閲→日本語仮訳）		●	◎	◎	◎	◎		1ヶ月
内容確認	Step5	地域確認②	日本語仮訳の内容確認 韓国語監修者がいる場合、韓国語解説文の確認	◎	●		(●)	(●)			2週間
最終調整	Step6	韓国語解説文と日本語仮訳の最終仕上げ	地域の意見を精査し、最終修正調整を行う		●	◎	(●)	(●)	◎	◎	2週間
地域納品	Step7	地域納品	所定の提出様式に収め、地域に納品		●						

② 事前準備

専門人材の確保

本事業では、観光庁多言語事業の英語解説文を活用し、韓国語解説文の作成を行う際に、韓国語を母国語とする者のほか、英語または日本語のネイティブレベルに近い言語力を有し、かつ、業務経験を豊富に持ち合わせている以下の人材を起用する。

・翻訳者　・エディター　・校閲者　・スタイルチェッカー　・ディレクター

詳細はP23「専門人材の起用に求められる要件」を参照

③ 内容検証

英語解説文の検証

整備対象の解説文（本事業の場合は観光庁多言語事業の英語解説文）が決定した後に、韓国語圏旅行者の視点から、**読み手が魅力と感じる要素の追記及びより分かりやすくするための表現の設定の2点における検証作業を行い、韓国語圏旅行者向けの訴求ポイント等の調整を行った**。次ページに、検証結果とその信頼に値する根拠の事例を明記する。

④ 地域確認（1回目）

検証内容の確認

専門人材から提案された検証後の英語解説文と日本語仮訳を確認する。

確認の流れとポイント

（1）　専門人材が提案する韓国語圏旅行者が魅力と感じる追記等調整内容、表現の設定に対して、差支えがないか、事実に齟齬がないかを地域側が確認する

↓

（2）　専門人材から指摘内容の確認等があったら、適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容の反映状況を確認する。専門人材は地域からの回答を反映し、解説文に盛り込む内容及び文体（文章のトーン＆マナー）の設定を確定する

専門人材への修正の依頼方法

指摘事項は、根拠資料等も添付して、専門人材に回答する。

参考：本事業の地域確認①の実例

（1） 専門人材が提案する韓国語圏旅行者が魅力と感じる追記や調整内容、表現の設定に対して、差支えがないか、事実に齟齬がないかを地域側が確認する

※地域と専門人材の双方が確認しやすくするため、追記・調整、修正・承認した箇所を色分けする

＜色分け例＞

・新規追記：赤文字
・調整箇所：青文字
・確認希望：緑文字

〈英語解説文〉

Higo Inlay

Higo is the old name for Kumamoto, and the traditional craft of Higo inlay involves engraving intricate designs into iron, then inlaying them with silver or gold. The iron is then rust-proofed and blackened with a tea solution to create a very strong color contrast.

The technique originally came to Japan from Europe. It became a popular Kumamoto craft in the early seventeenth century under Hirata Hikozo, a blacksmith whom Hosokawa Tadaoki (1563–1646) brought to the city from Omi Province (present-day Shiga Prefecture). Local metalworkers started producing ornamental gun barrels, sword guards, and smoking pipes exclusively for the samurai class.

A Shift in the Market

The bottom dropped out of the Higo inlay market when the Meiji government passed an edict banning the wearing of swords in 1876 and began to strip the samurai of their centuries-old privileges. This forced the craftsmen to cater to the needs of a less-elevated clientele. The roughly 15 Higo inlay craftsmen still practicing in Kumamoto today make items like cufflinks, tie pins, pendants, and pens. Official efforts are being made to promote this ancient craft. When Japan hosted the G7 Summit in 2016, then prime minister Abe Shinzo gave each of his fellow world leaders a fountain pen decorated with Higo inlay. When Kumamoto hosted the 24th IHF Women's Handball World Championships in 2019, the medals were decorated with Higo inlay.

〈英語解説文の日本語仮訳〉

肥後象嵌

肥後は熊本の旧称であり、伝統工芸品である肥後象嵌（肥後は熊本の旧称）は、鉄に複雑な文様を彫り込み、銀や金の象嵌を施したものです。鉄に錆び止めを施し、茶液で黒くすることで、非常に強い色のコントラストを生み出しています。

象嵌はもともとはヨーロッパから日本に伝わった技術で、す。17世紀初頭、細川忠興（1563-1646）が近江国（現在の滋賀県）から連れてきた鍛冶屋・平田彦三のもとで、人気の工芸品となりました。その後、地元の金工職人たちも腕を磨きは、武士に納めるために、象嵌の装飾を施した銃身や刀の鍔、煙管などの製造を始めました。

市場の変化

1876年、明治政府が刀を提げて外出することを禁ずる廃刀令を出し、数世紀にわたって武士に与えられていた特権が失われたを剥奪したことで、肥後の象嵌市場は基盤が崩れました肥後象嵌はその市場を失い。そのため、職人たちは庶民より身分の低い客層のニーズに応えることを余儀なくされました。現在も熊本では15人ほどの肥後象嵌職人が活動しており、カフスボタン、ネクタイピン、ペンダント、ペンなどを作っています。日本政府では現在、この伝統工芸品の普及に向けた取り組みを行っており、2016年に日本で開催されたG7サミットでは、当時の安倍晋三首相が、肥後象嵌を施した万年筆を各国首脳に贈りました。また、2019年に熊本で開催された第24回世界女子ハンドボール選手権大会のメダルには肥後象嵌が施されていました。

＜書き換えのご確認＞
このようにした方が韓国語では納まりがよいと思いますが、ほかの解説文で肥後とは熊本のことであるということを述べていますので、この括弧書きはなくてもいいかもしれません。ご検討いただければと思います。

＜ご確認したい箇所＞
錆液を使って錆を生じさせた後、お茶で煮出して錆止めをするのではないでしょうか。下記ページの「錆出し」→「錆止め」参照。
https://wa-gokoro.jp/traditional-crafts/metalworks/331/

＜書き換えのご確認＞
韓国語翻訳の際には主語を追加したいと思います。

＜書き換えのご確認＞
韓国語は、日本語と語順が殆ど同じであり助詞の使い方も似ているため、韓国語訳の際に、おかしな韓国語文になってしまいそうな箇所は文章を書き換えております。

＜分かりやすさ＞
韓国語圏旅行者にとって、あまり馴染みのない固有名詞は、左記のように簡単な説明をつけることで、より理解しやすいと考えます。

出典
「コトバンク・日本国語大辞典」
https://kotobank.jp/word/%E5%BB%83%E5%88%80%E4%BB%A4-112989

↑
エディターの検証結果
内容と出典

……

（ここにご返答をご記入ください）

・「鉄に錆び止めを施し、茶液で黒くする」
錆液を塗った素材を火で温めて赤さびを出し、お茶で煮出し、錆止めをします。
https://mitsusuke.com/

・他は問題ありません。

↑
地域見解

⑤ 韓国語化

韓国語翻訳と日本語仮訳

地域の了承を得たエディターの検証結果を元に、韓国語翻訳を開始する。韓国語翻訳は「スタイル規定」(別冊『ライティング・スタイルマニュアル』を参照)に従い、以下の手順を踏み韓国語を作成する。最後に、編集を終えた韓国語を日本語仮訳にする。

本事業では、**英韓翻訳を基本としながら、一部日本語の追記・調整内容もあるため、日韓翻訳の知見を有する専門人材(翻訳者、エディター・校閲者)の参加が必要である**。

⑥ 地域確認(2回目)

地域2回目の確認作業では、主に韓国語解説文に対し、1回目確認の際に承認した変更内容の反映状況を確認すると同時に、韓国語解説文の表現や文体(文章のトーン&マナー)等を校閲する。

韓国語解説文の品質を担保するため、本ステップの確認作業は最も重要である。そのため、地域(観光資源の所有者や管理者等解説文を整備しようとする者)は解説文作成する専門人材とは別に、韓国語で監修できる者を確保することが望ましいが、地域でそのような人材が居ない場合は制作事業者と協議の上、**制作事業者が手配する。その他、地域は韓国語のネイティブ話者による第三者チェックを行うことが望ましい**(詳細要件はP23「校閲者」を参照)。

確認の流れとポイント

(1) 地域は韓国語解説文及びその日本語仮訳に対して、新規追記、調整した箇所も含めて、全体の内容が事実に齟齬がないかを確認

↓

(2) 専門人材から指摘内容の確認またはフィードバックがあったら、適切に対応し、指摘内容や修正依頼内容の反映状況を確認する

専門人材への修正の依頼方法

(地域確認1回目と同様に)指摘事項がある場合は根拠資料をつけた上回答する。

参考：本事業の地域確認②の実例

（1） 地域は韓国語解説文及びその日本語仮訳に対して、新規追記、調整した箇所も含めて、全体の内容が事実に齟齬がないかを確認。地域に韓国語のネイティブ話者がいる場合、韓国語解説文の内容や表現が韓国語圏旅行者にとって分かりやすいものになっているかをチェックする。

※地域と専門人材の双方が確認しやすくするため、追記・調整、修正・承認した箇所を色分けする

＜色分け例＞
・新規追記：赤文字
・調整箇所：青文字
・確認①修正：**黄色蛍光文字**

〈韓国語〉

히고 상감

전통 공예품 중 하나인 히고 상감(히고는 구마모토의 옛 이름)은 철에 복잡한 문양을 새긴 후 은이나 금을 박아넣는 것을 말합니다. 녹물을 바른 소재(철판)에 열을 가해 붉은 녹이 슬도록 만든 후, 찻물(탄닌)에 끓여내 녹을 방지하는 과정을 통해 강렬한 대비를 보여주는 색상을 만들어냅니다.

【修正指示】
（鉄板）
（タンニン）
をそれぞれ追加してください。

상감은 본래 유럽에서 일본으로 전해진 기술로 17세기 초, 호소카와 다다오키(1563 - 1646)가 오미국(지금의 시가현)에서 데려온 대장장이 히라타 히코조를 시작으로 인기 공예품으로 자리 잡았습니다. 그 후 지역 금공 장인들도 기술을 갈고닦으며 무사에게 헌납하기 위해 상감 장식을 새긴 총신과 칼날, 담뱃대 등을 제조하기 시작했습니다.

시장의 변화
1876년에 메이지 정부가 칼을 차고 외출하는 것을 금지하는 폐도령(廢刀令)을 내리면서 수 세기에 걸쳐 무사들에게 부여되었던 특권이 상실되었고, 이로 인해 히고 상감은 무사들을 대상으로 한 시장을 잃게 되면서 장인들은 서민들의 욕구를 충족시킬 수밖에 없는 상황이 처했습니다. 구마모토에서는 지금도 약 15명의 히고 상감 장인이 활동하고 있으며 커프스 버튼, 넥타이핀, 펜던트, 펜 등을 만들고 있습니다. 현재 일본 정부는 히고 상감을 보급하고자 노력하고 있으며, 그 일환으로 2016년에 일본에서 개최된 G7 정상회의에서는 당시 아베 신조 총리가 히고 상감 기법을 활용한 만년필을 각국 정상들에게 선물했습니다. 또한, 2019년 구마모토에서 개최된 제24회 세계여자핸드볼선수권대회에서 수여된 메달에는 히고 상감 기법이 사용되었습니다.

【修正指示】
「廃刀令」の表記は
「폐도령(廢刀令)」と漢字
も併記でお願いします。

히고 상감에 대한 자세한 내용은 구마모토현 전통 공예관에서 알아볼 수 있으며, 구마모토성 인근 전통 매장에서는 워크숍도 개최합니다.

〈韓国語解説文の日本語仮訳〉

肥後象嵌

~~肥後は熊本の旧称であり、~~伝統工芸品である肥後象嵌（肥後は熊本の旧称）は、鉄に複雑な文様を彫り込み、銀や金の象嵌を施したものです。錆液を塗った素材（鉄板）を火で温めて赤さびを出し、お茶（タンニン）で煮出し、錆止めをする~~鉄に錆び止めを施し、茶液で黒くする~~ことで、非常に強い色のコントラストを生み出しています。

【修正指示】
（鉄板）
（タンニン）
をそれぞれ追加してください。

象嵌はもともと~~は~~ヨーロッパから日本に伝わった技術で、~~す。~~17世紀初頭、細川忠興（1563-1646）が近江国（現在の滋賀県）から連れてきた鍛冶屋・平田彦三のもとで、人気の工芸品となりました。その後、地元の金工職人たちも腕を磨きは、武士に納めるために、象嵌の装飾を施した銃身や刀の鍔、煙管などの製造を始めました。

↑
地域見解

市場の変化
1876年、明治政府が刀を提げて外出することを禁ずる廃刀令を出し、数世紀にわたって武士に与えられていた特権が失われた~~を剥奪した~~ことで、~~肥後の象嵌市場は基盤が崩れました肥後象嵌はその市場を失い。そのため~~、職人たちは庶民~~より身分の低い客層~~のニーズに応えることを余儀なくされました。現在も熊本では15人ほどの肥後象嵌職人が活動しており、カフスボタン、ネクタイピン、ペンダント、ペンなどを作っています。日本政府では現在、この伝統工芸品の普及に向けた取り組みを行っており、2016年に日本で開催されたG7サミットでは、当時の安倍晋三首相が、肥後象嵌を施した万年筆を各国首脳に贈りました。また、2019年に熊本で開催された第24回世界女子ハンドボール選手権大会のメダルには肥後象嵌が施されていました。

⑦ 最終調整

韓国語解説文と日本語仮訳の最終仕上げ

地域のご指摘を踏まえ、編集・校閲を行う。調整後の韓国語解説文に対し、スタイルチェッカーが本事業の編集方針である韓国語解説文の『ライティング・スタイルマニュアル』に基づき、段落・フォントなどの書式や固有名詞の表記、句読点・引用符などの符号の使い方など、ライティング・スタイルの統一を最終確認する。スタイルチェッカーの指摘を踏まえ、韓国語解説文を最終編集した上で、日本語仮訳の最終編集を行う。

参考：本事業のスタイルチェッカーによる確認の実例

＜色分け例＞
・新規追記：赤文字
・調整箇所：青文字
・確認①修正：黄色蛍光文字
・確認②修正：水色蛍光文字

〈韓国語〉

히고 상감

전통 공예품 중 하나인 히고 상감(히고는 구마모토의 옛 이름)은 철에 복잡한 문양을 새긴 후 은이나 금을 박아넣는 것을 말합니다. 녹물을 바른 소재(철판)에 열을 가해 붉은 녹이 슬도록 만든 후, 찻물(탄닌)에 끓여내 녹을 방지하는 과정을 통해 강렬한 대비를 보여주는 색상을 만들어 냅니다.

상감은 본래 유럽에서 일본으로 전해진 기술로 17세기 초, 호소카와 다다오키(1563 - 1646)가 오미국(지금의 시가현)에서 데려온 대장장이 히라타 히코조를 시작으로 인기 공예품으로 자리 잡았습니다. 그 후 지역 금공 장인들도 기술을 갈고닦으며 무사에게 헌납하기 위해 상감 장식을 새긴 총신과 칼날, 담뱃대 등을 제조하기 시작했습니다.

【修正指示】
不要なスペースを削除。

시장의 변화
1876년에 메이지 정부가 칼을 차고 외출하는 것을 금지하는 폐도령(廢刀令)을 내리면서 수 세기에 걸쳐 무사들에게 부여되었던 특권이 상실되었고, 이로 인해 히고 상감은 무사들을 대상으로 한 시장을 잃게 되면서 장인들은 서민들의 욕구를 충족시킬 수밖에 없는 상황이 처했습니다. 구마모토에서는 지금도 약 15명의 히고 상감 장인이 활동하고 있으며 커프스 버튼, 넥타이핀, 펜던트, 펜 등을 만들고 있습니다. 현재 일본 정부는 히고 상감을 보급하고자 노력하고 있으며, 그 일환으로 2016년에 일본에서 개최된 G7 정상회의에서는 당시 아베 신조 총리가 히고 상감 기법을 활용한 만년필을 각국 정상들에게 선물했습니다. 또한, 2019년 구마모토에서 개최된 제24회 세계여자핸드볼선수권대회에서 수여된 메달에는 히고 상감 기법이 사용되었습니다.

【修正指示】
「이」を「에」へ修正。

↑
スタイルチェッカーの見解

히고 상감에 대한 자세한 내용은 구마모토현 전통 공예관에서 알아볼 수 있으며, 구마모토성 인근 전통 매장에서는 워크숍도 개최합니다.

⑧ 地域納品

地域納品

最後に、韓国語解説文と日本語仮訳の原稿を所定の提出様式に収め、地域協議会に納品する。

参考:本事業の地域納品の実例

〈韓国語〉

히고 상감

전통 공예품 중 하나인 히고 상감(히고는 구마모토의 옛 이름)은 철에 복잡한 문양을 새긴 후 은이나 금을 박아넣는 것을 말합니다. 녹물을 바른 소재(철판)에 열을 가해 붉은 녹이 슬도록 만든 후, 찻물(탄닌)에 끓여내 녹을 방지하는 과정을 통해 강렬한 대비를 보여주는 색상을 만들어 냅니다.

상감은 본래 유럽에서 일본으로 전해진 기술로 17세기 초, 호소카와 다다오키(1563-1646)가 오미국(지금의 시가현)에서 데려온 대장장이 히라타 히코조를 시작으로 인기 공예품으로 자리 잡았습니다. 그 후 지역 금공 장인들도 기술을 갈고닦으며 무사에게 헌납하기 위해 상감 장식을 새긴 총신과 칼날, 담뱃대 등을 제조하기 시작했습니다.

시장의 변화
1876년에 메이지 정부가 칼을 차고 외출하는 것을 금지하는 폐도령(廢刀令)을 내리면서 수 세기에 걸쳐 무사들에게 부여되었던 특권이 상실되었고, 이로 인해 히고 상감은 무사들을 대상으로 한 시장을 잃게 되면서 장인들은 서민들의 욕구를 충족시킬 수밖에 없는 상황에 처했습니다. 구마모토에서는 지금도 약 15명의 히고 상감 장인이 활동하고 있으며 커프스 버튼, 넥타이핀, 펜던트, 펜 등을 만들고 있습니다. 현재 일본 정부는 히고 상감을 보급하고자 노력하고 있으며, 그 일환으로 2016년에 일본에서 개최된 G7 정상회의에서는 당시 아베 신조 총리가 히고 상감 기법을 활용한 만년필을 각국 정상들에게 선물했습니다. 또한, 2019년 구마모토에서 개최된 제24회 세계여자핸드볼선수권대회에서 수여된 메달에는 히고 상감 기법이 사용되었습니다.

히고 상감에 대한 자세한 내용은 구마모토현 전통 공예관에서 알아볼 수 있으며, 구마모토성 인근 전통 매장에서는 워크숍도 개최합니다.

〈日本語仮訳〉

肥後象嵌

伝統工芸品である肥後象嵌（肥後は熊本の旧称）は、鉄に複雑な文様を彫り込み、銀や金の象嵌を施したものです。錆液を塗った素材（鉄板）を火で温めて赤さびを出し、お茶（タンニン）で煮出し、錆止めをすることで、非常に強い色のコントラストを生み出しています。

象嵌はもともとヨーロッパから日本に伝わった技術で、17世紀初頭、細川忠興（1563-1646）が近江国（現在の滋賀県）から連れてきた鍛冶屋・平田彦三のもとで、人気の工芸品となりました。その後、地元の金工職人たちも腕を磨き、武士に納めるために、象嵌の装飾を施した銃身や刀の鍔、煙管などの製造を始めました。

市場の変化
1876年、明治政府が刀を提げて外出することを禁ずる廃刀令を出し、数世紀にわたって武士に与えられていた特権が失われたことで、肥後象嵌はその市場を失い、職人たちは庶民のニーズに応えることを余儀なくされました。現在も熊本では15人ほどの肥後象嵌職人が活動しており、カフスボタン、ネクタイピン、ペンダント、ペンなどを作っています。日本政府では現在、この伝統工芸品の普及に向けた取り組みを行っており、2016年に日本で開催されたG7サミットでは、当時の安倍晋三首相が、肥後象嵌を施した万年筆を各国首脳に贈りました。また、2019年に熊本で開催された第24回世界女子ハンドボール選手権大会のメダルには肥後象嵌が施されていました。

肥後象嵌に関する詳しいことは熊本県伝統工芸館で知ることができ、熊本城の近くにある老舗のお店ではワークショップも開催されています。

※ 本事業の納品物の詳細は『解説文事例集』をご参照ください。

Ⅳ．参考資料

本事業の有識者体制

韓国語解説文の品質を担保するため、本事業では日本文化を韓国市場向けに紹介する知見を有する外部有識者を招聘し、Step5地域確認②の前に、韓国語解説文と元の英語解説文・日本語仮訳と併せて閲読いただき、内容とスタイルの両面において助言をいただいた。

曺 喜澈

言語学分野担当

日本薬科大学（韓国薬学コース）客員教授。元東海大学教授
2008年度「NHKまいにちハングル講座（入門編）」、2010年度「NHKアンコールまいにちハングル講座」、2009年～2010年度「NHKテレビでハングル講座」講師。
著書に『Q&Aナットク！韓国日常感覚』、『アジア語楽紀行チェジュ(済州）』（NHK出版）、『韓国語・辞書にない俗語慣用表現』、『韓国の昔話(イェンナルイヤギ）善悪編』など（白帝社）、『ヨン様川柳（共著）』、『食わず嫌いの韓国』（グラフ社）、『現代韓国を知るキーワード77 』（大修館書店）、『 1時間でハングルが読めるようになる本』、『 1日でハングルが書けるようになる本』（Gakken）など。

主な経歴：
・国際観光振興会（現：国際観光振興機構）外国語ガイド試験委員（韓国語）
・警察大学校専門委員（韓国語講師）
・警察庁外国語技能試験検定専門委員（韓国語）
・独立行政法人大学入試センター試験委員（韓国語）

崔 瑛

観光分野担当

神奈川大学　国際日本学部国際文化交流学科　准教授
専門は観光学
科学研究費 2022-2024年度「観光地マネジメントにおけるDMOとエリアマネジメント組織の役割と協働のあり方」の代表者

主な経歴：
・成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業
　再就職を目指す女性の人材育成プロジェ クト～観光ビジネス編～
　ワーキンググループ委員及び産学官連携会議委員（至2016 年3月）
・日本観光研究学会 学術委員会 委員（現在に至る）
・第3回日本国際観光映像祭国際部門審査員
・地域活性学会学会誌編集委員会 委員（現在に至る）